

氏 名：渡邊千登世
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 149 号
学位授与年月日：2017 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 亀井 智子（聖路加国際大学教授）
副査 井部 俊子（聖路加国際大学教授）
副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学准教授）
副査 井川 靖彦（東京大学教授）
副査 真田 弘美（東京大学教授）

論 文 題 目：特別養護老人ホームにおける「チーム変革型尿失禁高齢者ケアプログラム」
導入によるチームの変容：混合研究法による評価

博士論文審査結果

高齢者への日常生活援助の中で排泄ケアを充実することは、高齢者の尊厳を保ち、生活の質を維持する上で不可欠である。わが国の特別養護老人ホーム入所高齢者 78%に尿失禁があると報告されており、これらへのオムツ使用は尿路感染や皮膚障害につながることもあるため、ケア上の課題の一つとなっている。また、特別養護老人ホームにおける失禁ケアは、看護師、および介護職員との協働によるチームによるケアの取り組みが不可欠であるため、チーム力を向上する方法にも着目することが必要である。

本研究では、特別養護老人ホームにおいて看護師と介護職員が協働で取り組むことにより入所高齢者の尿失禁の改善をはかること目的として「チーム変革型尿失禁高齢者ケアプログラム」を開発し、特別養護老人ホーム 3 施設に適用し、高齢者計 9 名、およびケアを提供する看護師 11 名、介護職員 70 名、計 81 名のケア提供者を対象として、「プログラム導入後の看護師・介護職員の尿失禁ケア管理に関する困難感の低下」、「チーム学習の充実」をプライマリアウトカム、「高齢者の尿失禁回数」「オムツ交換回数」等をセカンダリアウトカムに設定し、介入前後の量的評価、およびチーム内に生じた困難感の内容等の質的評価をもとに、収斂法による混合研究法デザインを用いて、チームの変容への有効性を評価した。

審査の過程では、次の点が指摘され、修正が求められた。

- 1.対象となった高齢者 9 名のベースライン特性において、本人の尿意、および残尿量の確認方法、主疾患および合併症、薬物使用状況、自立度などの基本的特性の記載がないため、加筆すること。
- 2.本文中の「尿量」とあるのは「総尿量」であるため、適切に記載すること。
- 3.本研究で評価に用いている諸データについての定義が書かれていないため、収集するデータの定義とその取り扱い等を方法論に加筆すること。また、使用する尺度や機器の信頼性・妥当性について記述すること。
- 4.本研究は介入研究であるが、仮説をおいていないため、本プログラムの妥当性が何をもって妥当とするのか、判断できない。アウトカムを明確にした仮説を設定すべきである。
- 5.結果において、夜間多尿に関して具体的な結果が書かれていないのに考察が記述されている。これを修正し、日中の尿失禁回数の改善と夜間の尿失禁の関係性、また職員の夜間のマンパワーの状況について詳細に考察すること。
- 6.考察の一部に結果が再度記述されている部分があるため、修正し客観的考察を加えること。
- 7.チームの変容について、ITA 尺度得点の数値は記述されているが、チームにどのような変容があったのか、その内容について結果に記述されていない。また、高齢者の排尿の特徴を看護師と介護職員が共有して認識できたことが有用な結果である。さらに、看護師と介護職員との排尿ケアの意識や認識の違いが示されているため、本プログラムの導

入前後でチームがどのように変容したのか、なぜ成功したのかオリジナリティを含めて考察に加筆すること。

8. 看護師・介護職員による評価では、プログラムの有用性 83%、不快感改善 46%と開きがあるため、これらの理由を考察すること。また、尿失禁ケア管理の困難性の質的分析から、看護師と介護職員間でほぼ同一のようであるが、困難性の違いを示して、説明すること。
9. 本プログラムの外的妥当性が述べられていないため、他の集団に適用可能なのか不明確である。本プログラムの妥当性を考察すること。
10. 本研究は混合研究法による方法論を用いるとしているが、研究設問の置き方が量的研究の示し方になっている。また、結果が量的分析結果と質的分析結果が別々に示されているのみとなっている。方法論に研究ダイアグラムを示して、量的データと質的データを各々明確に説明し、どの時点で何を収集し、両データをいつ収斂するのかを述べる必要がある。さらに、両データの収斂結果をジョイントディスプレイにより示し、量的なチームの変化量に関する質的データによる説明を加えること。
11. そのほか、英文タイトル、本文中の誤字、句読点、図表のタイトルなどについて、再度十分確認し、適切に修正すること。

これらの点について、修正が行われ、審査員全員が修正は適切に行われたことを確認した。

本研究は、特別養護老人ホームに勤務する看護師と介護職員間の協働による尿失禁ケアの提供プロセスに良い影響を与え、それが入所高齢者の日中の尿失禁量を低下することにつながる可能性を示唆しており、高齢者の尊厳を維持する排泄ケアに貢献すると考えられ、発展性が期待できる研究である。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。